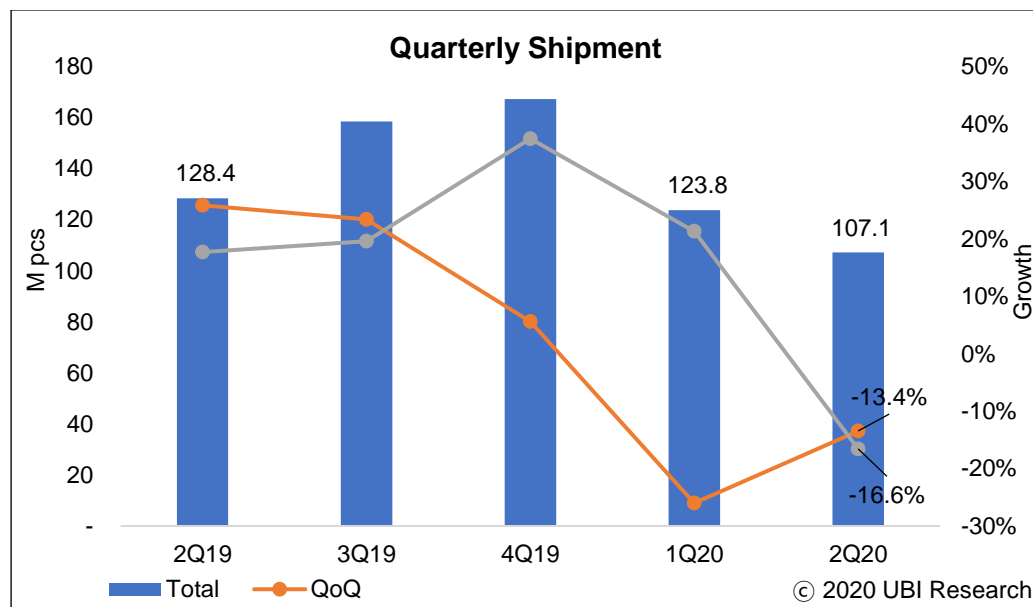


2020.8.24

2020年第2四半期OLEDの実績の分析

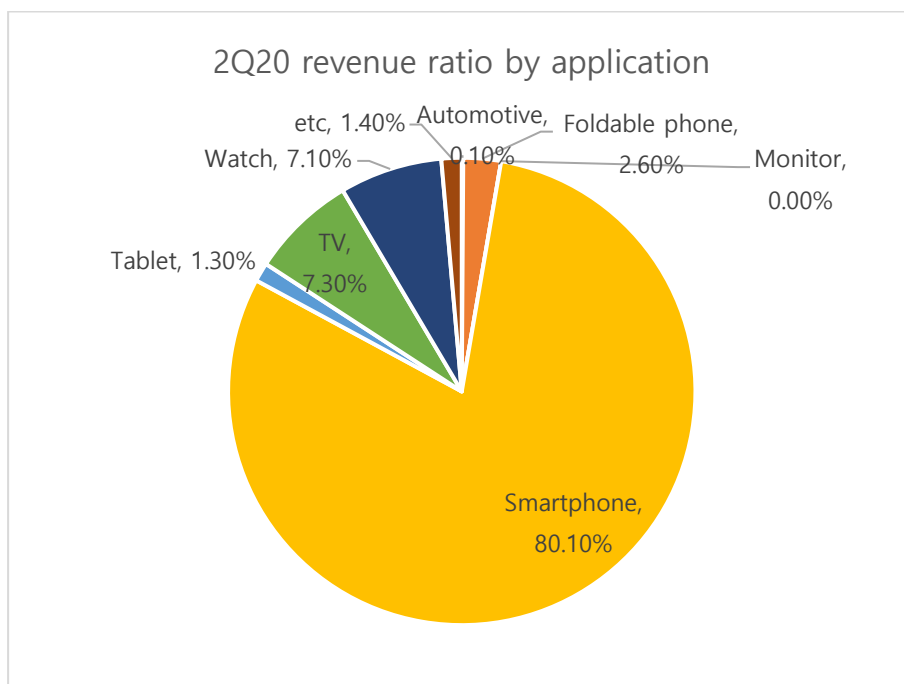
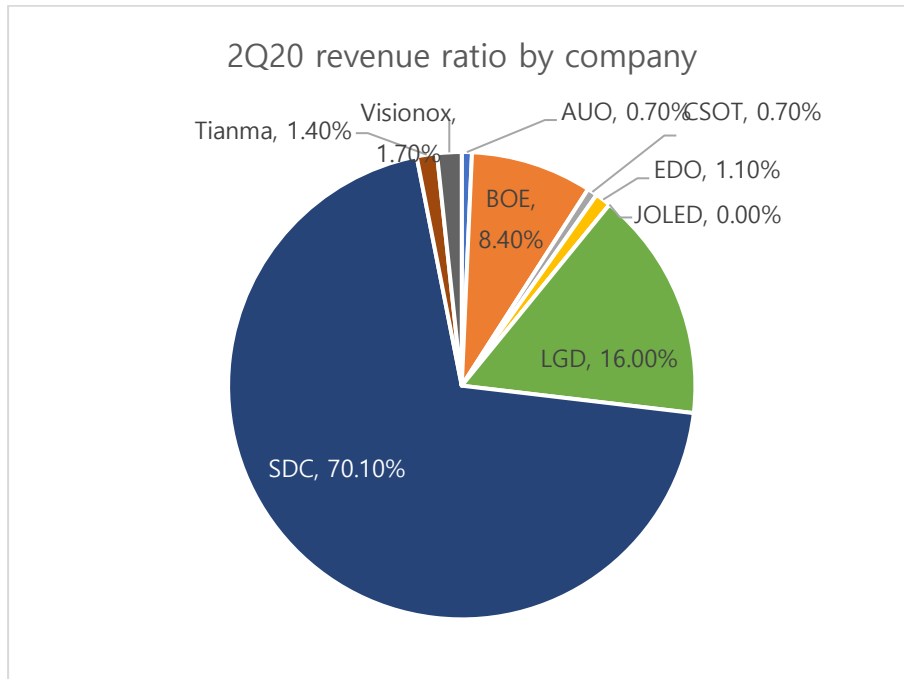
UBIリサーチが発行した2020年第2四半期マーケットトラックよれば、第2四半期全体OLED出荷量は1億700万台で、前四半期の1億24百万台に比べ13.4%（QoQ）が減少した。2019年第2四半期は1億28百万台に比べ16.6%（YoY）が減少したと集計された。COVID-19の影響により、OLEDを使用するセット機器の売上が減少したためである。



第2四半期の総売上高は65.1億ドルで、前四半期に比べ15.4%減少し、前年同四半期に比べて12.9%減少した。

OLED市場をリーディングしているサムスンディスプレイは、全体の売上高のうち70.1%（45.6億ドル）を占めたが、前期74.6%（57.4億ドル）に比べると20.5%減少した。昨年同四半期60.2億ドルに比べると24.2%減少した。BOEは前四半期の市場シェア5.0%で8.4%に増加した5.5億ドルの売上高を達成した。LGDはシェアが13.8%から16.0%に増えた10.5億ドルの売上高を記録した。これらの企業の売上高の増加の原因は、スマートフォン用OLED出荷量の増加によるものである。

Weekly Display Industry Analysis Report



第2四半期の売上高の製品別割合をみると、スマートフォン用OLEDは52.1億ドルで、80.1%の最大のシェアを占めているが、前四半期85.2%（65.5億ドル）に比べると5.1%減少した。Foldable phone用OLEDは1.7億ドルの売上高として2.6%のシェアを確保した。